

株式会社バイ・テクノロジー

2021年3月期(第24期)

決算説明会

補足説明資料

2021年5月13日

将来見通し等について

▶ 将来見通し

本資料に記載されている当社の計画、戦略、見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、これらは現在入手可能な期待、見積、予想に基づいています。これらの期待、見積、予想は、経済情勢・市況の変化、競争環境の変化、顧客のある国の政策変化、係争中及び将来の訴訟の結果など多くの潜在的リスク、不確実な要素、過程の影響を受けますので、実際の業績は見通しから大きく異なる結果となる可能性があります。従って、これら将来予想に関する記述に全面的に依拠することは差し控えて頂きますようお願いいたします。また、当社は新しい情報、将来の出来事などに基づきこれらの将来予測を更新する義務を負うものではありません。

▶ 為替リスク

当社の主力製品である、フラットパネルディスプレイ製造装置の輸出販売は、原則円建てで行われております。一部に外貨建て決済もありますが必要に応じて受注時に為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしております。従って、装置販売に関する為替レート変動による影響は軽微であります。

▶ 数字の処理

記載された金額は、単位未満を切り捨て処理、比率は単位金額で処理した結果を四捨五入している為、内訳と一致しない場合があります。

▶ 暫定的な会計処理の確定

2019年8月22日に行われた株式会社ナノシステムソリューションズとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、第2四半期連結会計期間に確定しております。この暫定的な会計処理の確定に伴い、遡及修正後の数値を用いて比較分析を行っております。

| 決算概要

損益の状況

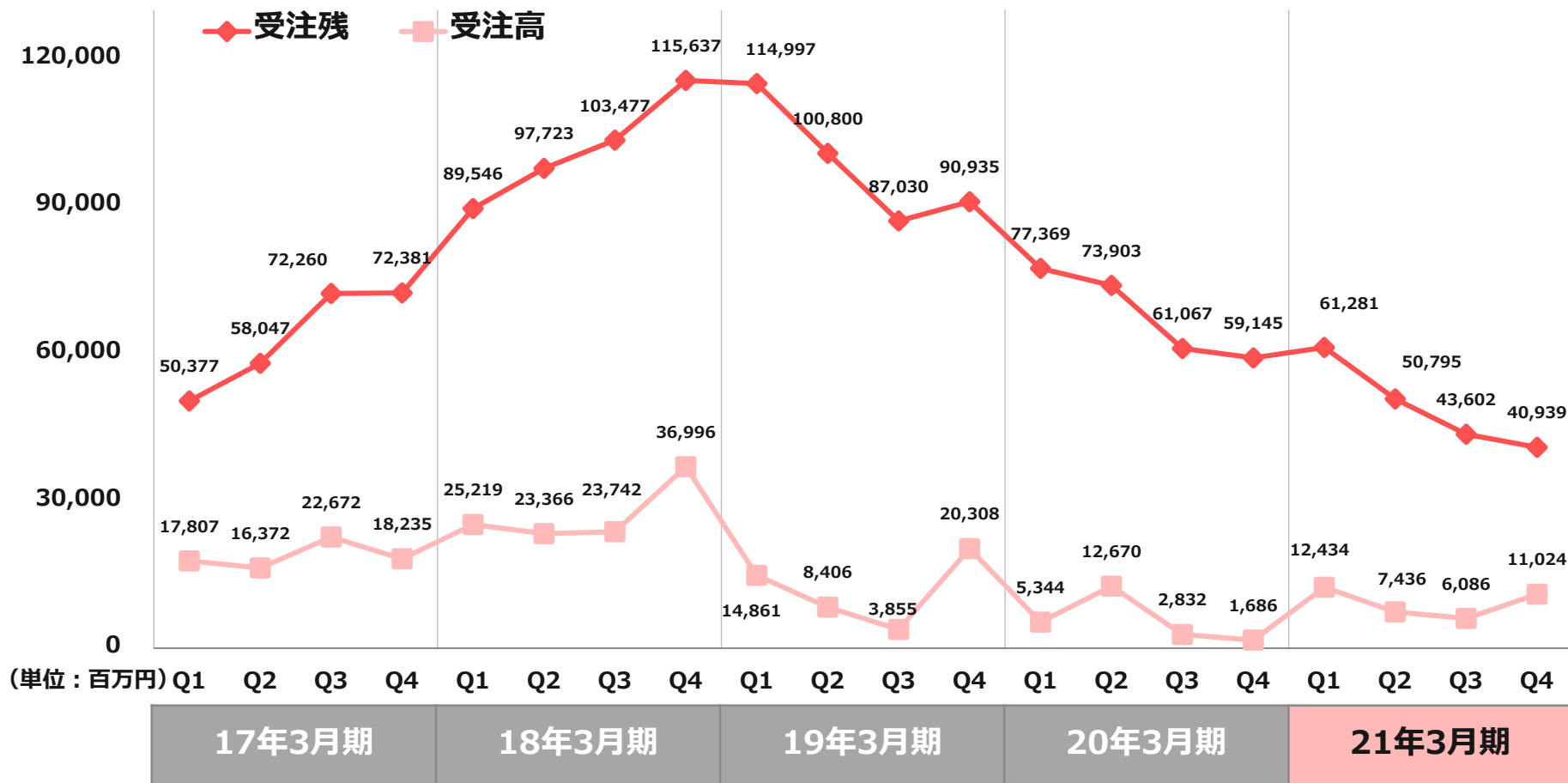
- ▶ コロナ影響も計画通り概ね進捗、売上微増、利益は上振れて着地
 - ミックス変化、コストダウン効果による

(百万円)	20年3月期		21年3月期		前年 同期比	(ご参考) 21年3月期 予想
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	54,322	100.0%	55,186	100.0%	+1.6%	54,000
売上総利益	15,122	27.8%	15,704	28.5%	+3.8%	—
営業利益	5,653	10.4%	6,604	12.0%	+16.8%	6,000
経常利益	6,156	11.3%	6,836	12.4%	+11.0%	5,800
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,251	6.0%	3,513	6.4%	+8.1%	3,000

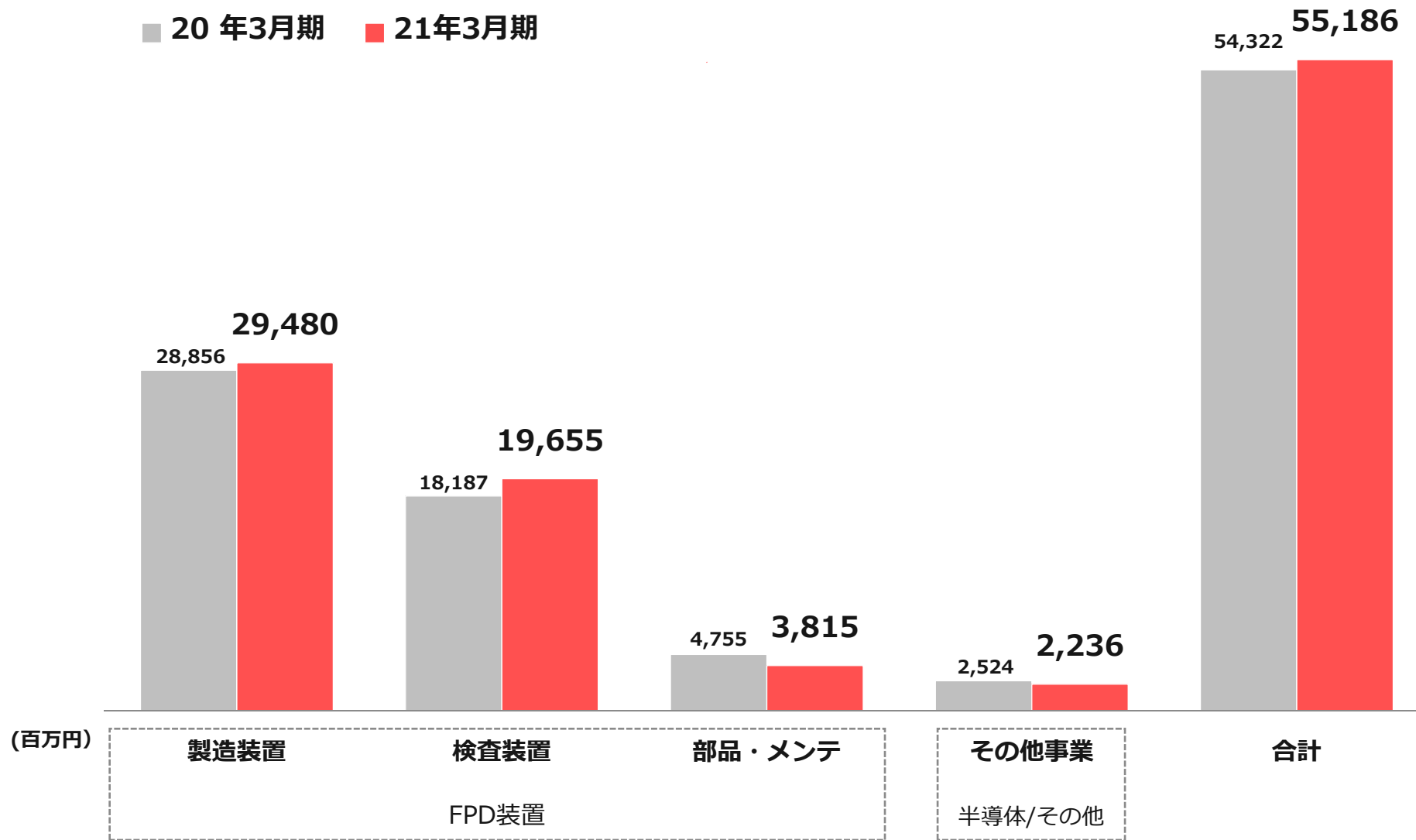
連結受注残・四半期連結受注高の推移

▶ 受注高は、前年比64.1%増の36,980百万円

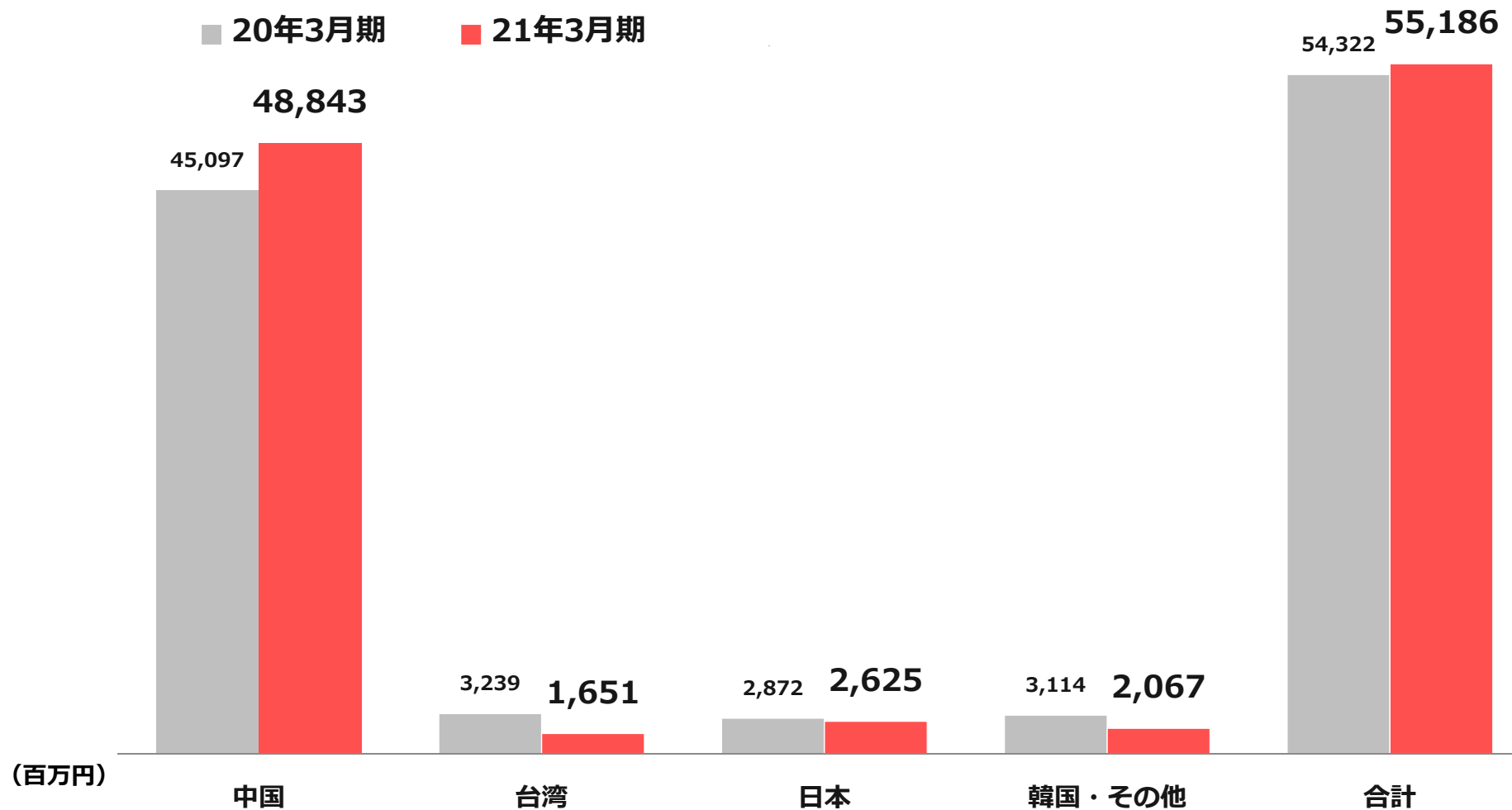
▸ Q4受注はほぼ想定通り進展し持ち直し



装置別連結売上高

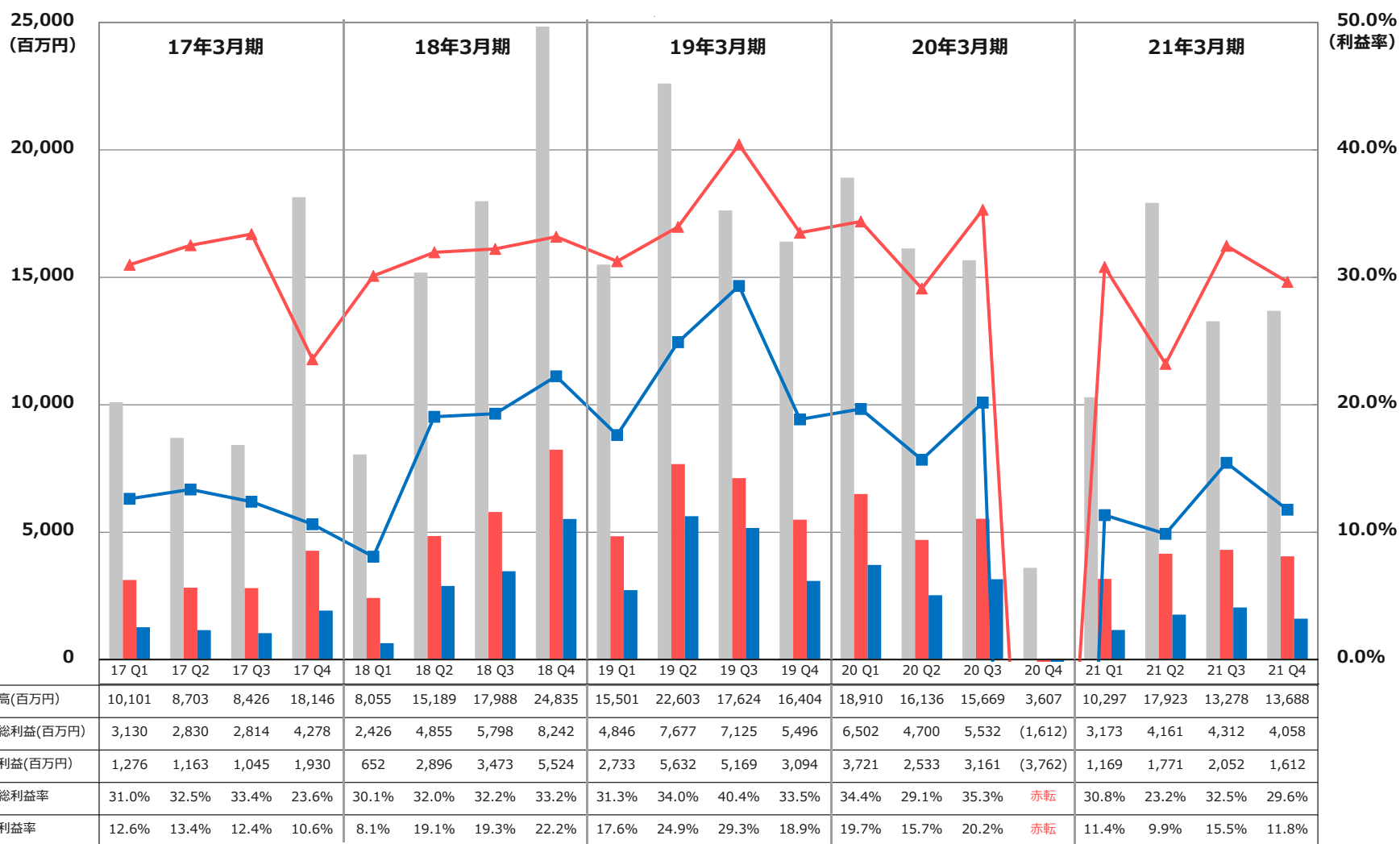


地域別連結売上高

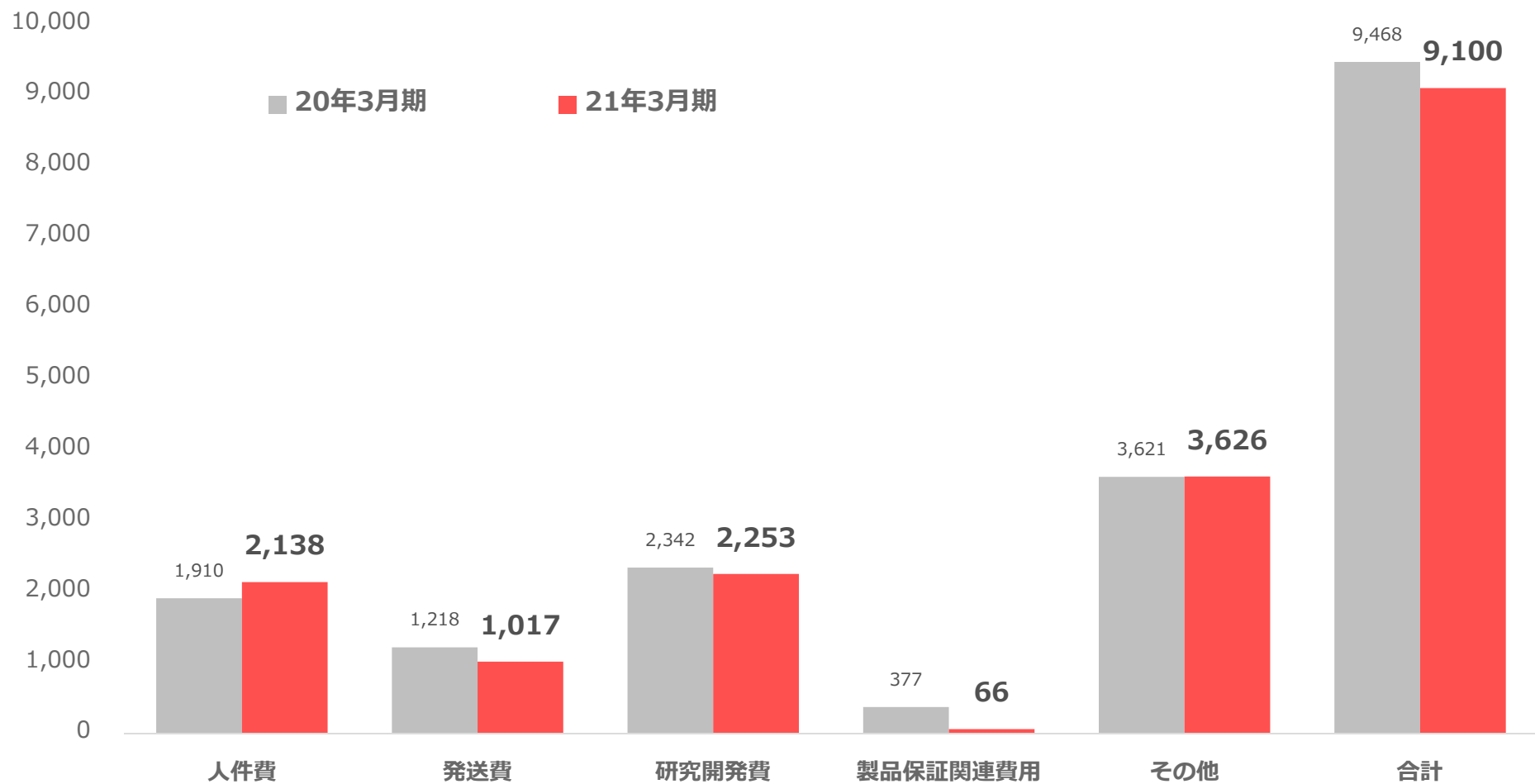


四半期毎連結売上高・利益の推移

▶ 四半期売上・利益は、顧客や売上構成の違いで変化

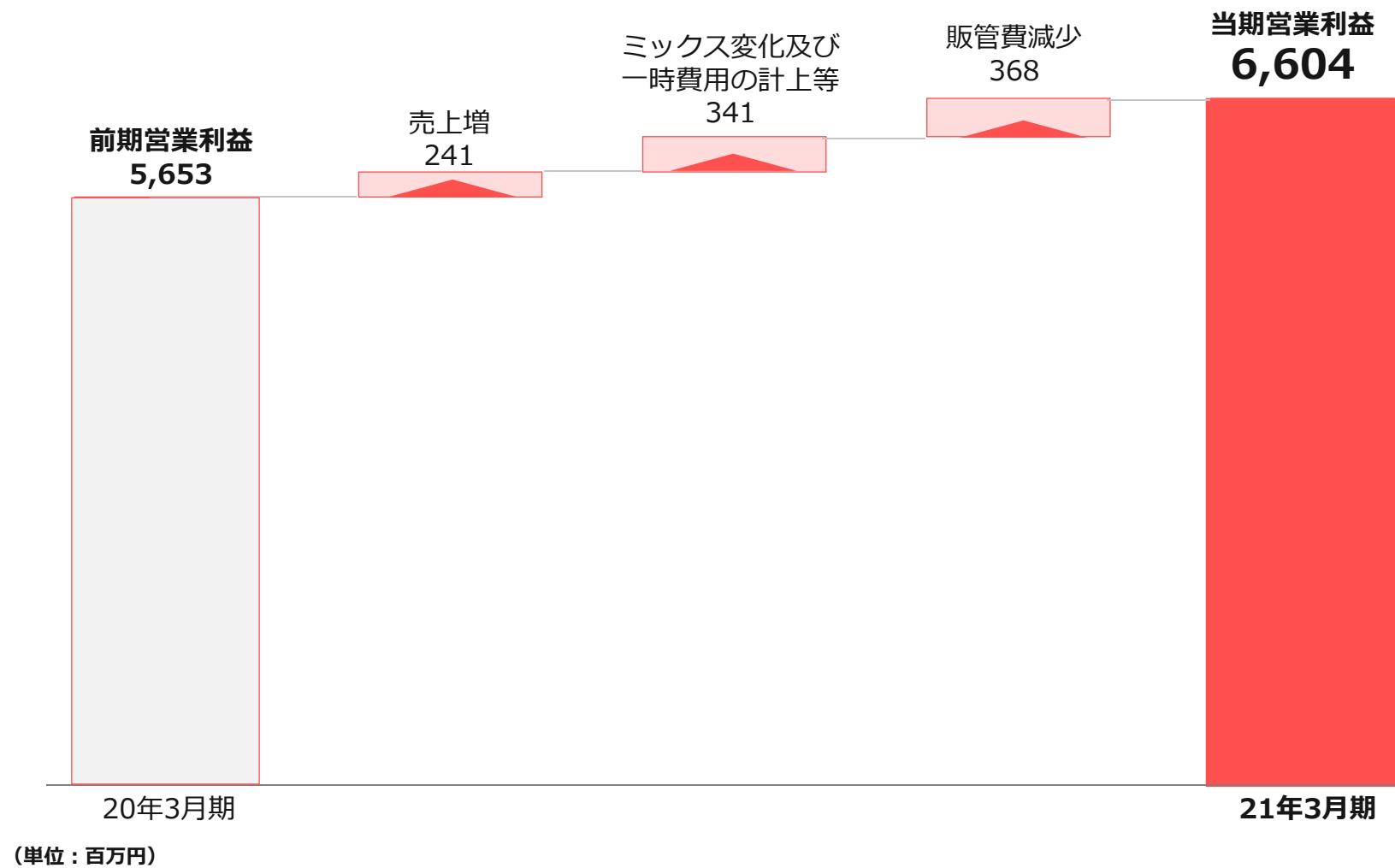


販売費及び一般管理費



(単位：百万円)

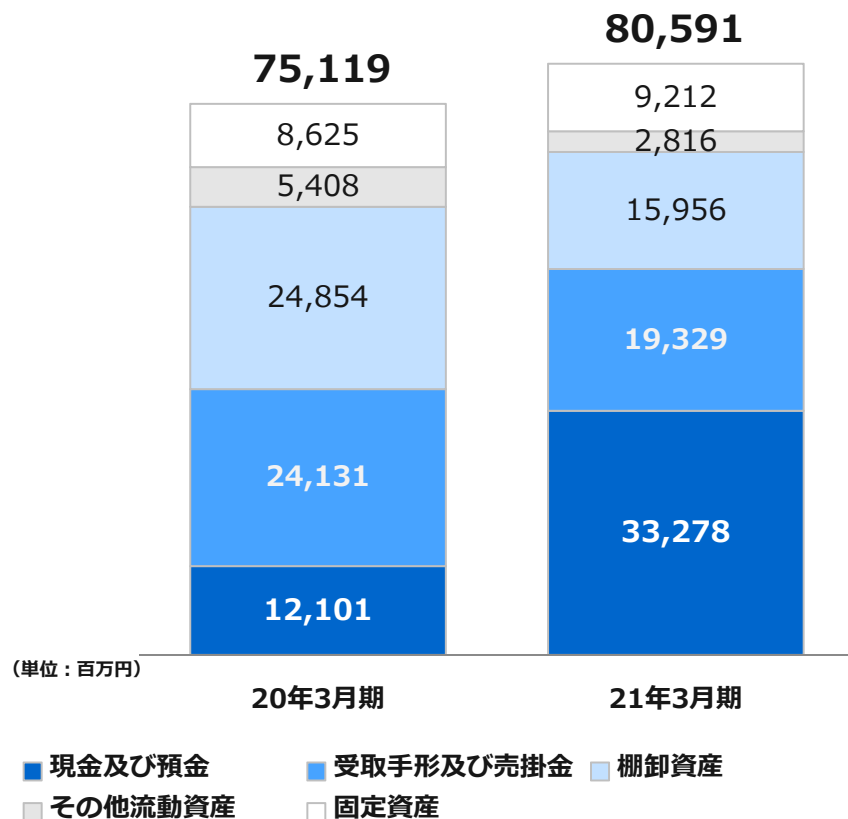
連結営業利益の差異分析



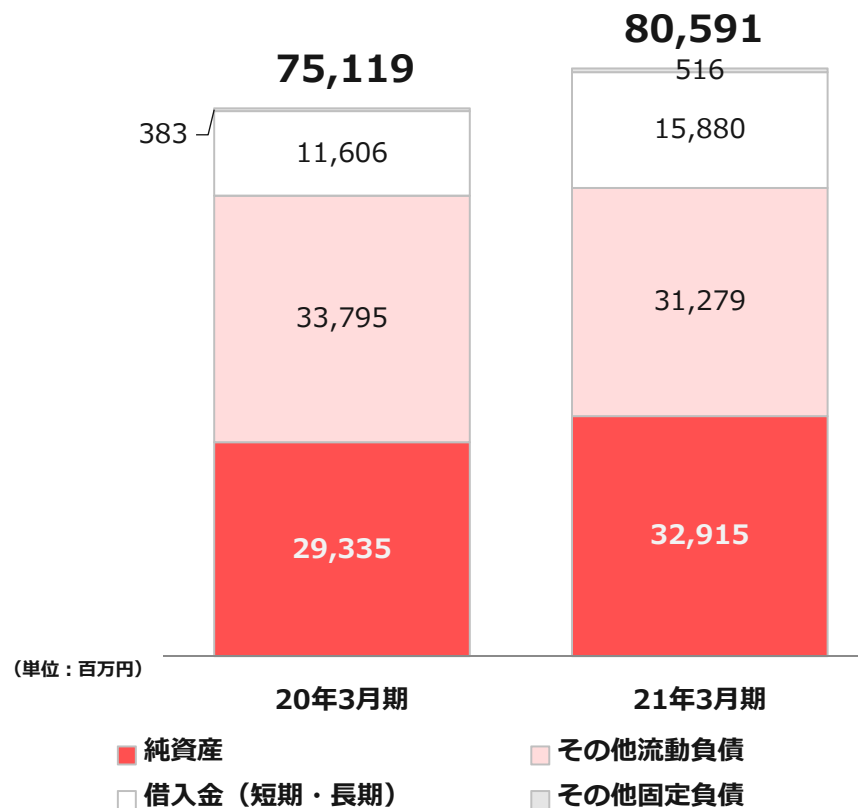
連結貸借対照表の推移

▶ 売上進捗に伴う仕掛品の減少、売掛金の減少、手元流動性確保の為の借入等から、現預金は前期末比で約211億円の増加

総資産



負債・純資産



連結キャッシュフロー

- ▶ 売上回復による棚卸資産の減少や、当期純利益の増加、債権回収の進展により、営業キャッシュフローは201億円のプラス

		20年3月期	21年3月期
営業活動による キャッシュフロー	税金調整前純利益	6,191	7,054
	売上債権（増加▲）	1,547	5,507
	たな卸資産（増加▲）	▲319	9,021
	仕入債務（減少▲）	▲5,885	▲1,384
	その他	▲9,387	▲25
	Total	▲7,853	20,173
投資活動によるキャッシュフロー Total		▲3,828	▲1,251
財務活動による キャッシュフロー	借入による収入	20,940	14,532
	返済による支出	▲14,360	▲10,997
	その他	▲2,506	▲1,563
	Total	4,074	1,972
現金及び現金同等物に関わる換算差額		▲126	283
現金及び現金同等物の増減額（減少▲）		▲7,734	21,177
期首現金及び現金同等物残高		19,716	11,981
現金及び現金同等物の期末残高		11,981	33,158

| 業績予想

2022年3月期の業績および配当予想

業績予想	21年3月期(実績)		22年3月期(予想)		対前期 増減率
	金額(百万円)	構成比	金額(百万円)	構成比	
売上高	55,186	—	60,000	—	8.7%
営業利益	6,604	12.0%	7,200	12.0%	9.0%
経常利益	6,836	12.4%	7,050	11.8%	3.1%
親会社株主に 帰属する当期純利益	3,513	6.4%	4,300	7.2%	22.4%
EPS	363.41円		444.70円		—

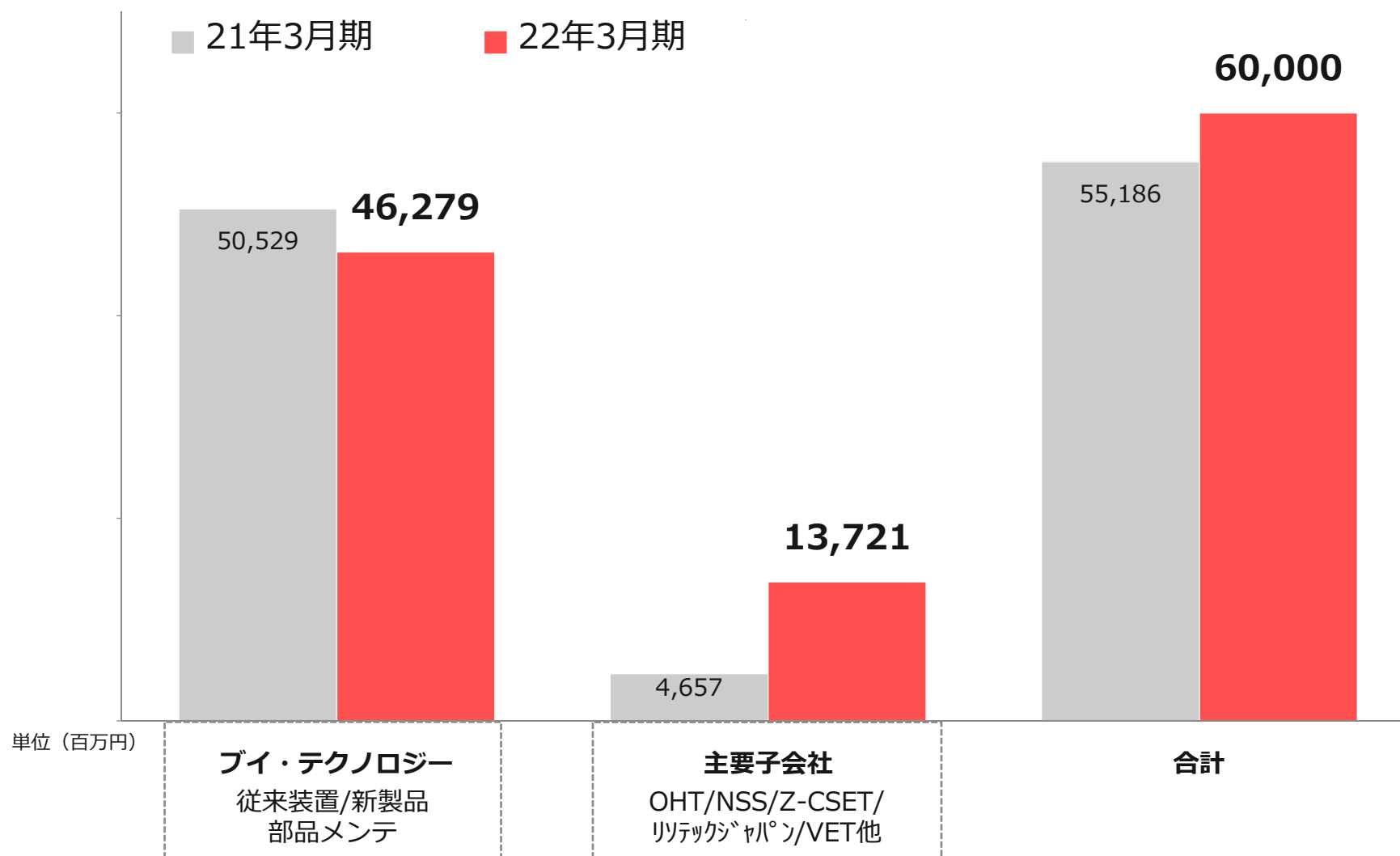
配当予想	21年3月期(実績と計画)	22年3月期(予想)
中間	60円(実績)	60円(予想)
期末	60円(計画)	60円(予想)

| 当社および主要子会社の概況

2022年3月期 通期売上予想内訳(会社別)

▶ 前年比で8.7%増の60,000百万円を予想

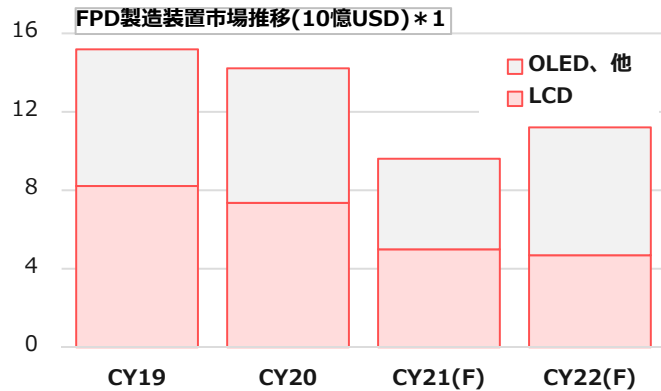
用途別内訳をスライド25に掲載



バイ・テクノロジーの概況

1. 21年のFPD装置市場は減少

22年以降はOLED等の次世代FPD関連投資が市場を牽引する見通し



2. 従来装置事業の強化

各種施策を実施

体制 製品化速度/装置性能/顧客満足の上向を目的とした組織の変更

露光装置



修正装置



主なテーマ

- ・性能
- ・コストダウン
- ・カスタマーサポート

3. 次世代FPD技術

WOLED VS Mini-LED(LCD)、μLED

欠点の少ないMini-LEDに注目集まる一方でμLEDの開発活発

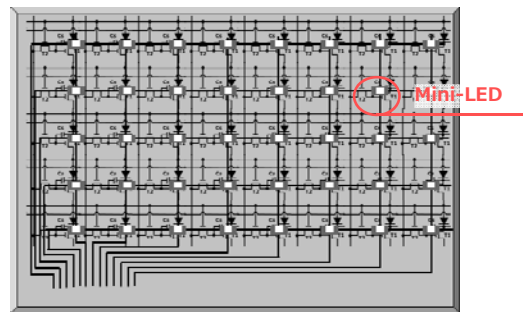
	LCD	White OLED	印刷	Mini-LED	μ-LED
画質	△	◎	○	○	◎
生産性	◎	△	△	○	△
寿命	◎	△	×	◎	◎

FPD技術別比較表(画質/生産性/寿命)*2

4. Mini-LED/μLED関連のR&D

① Mini-LEDの画質課題

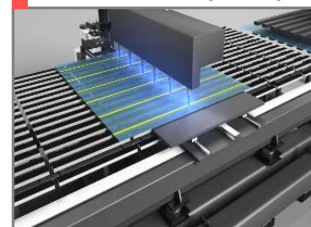
- ✓ ちらつき・低輝度(パルス駆動)
- ✓ アクティブ駆動+Mini-LED高密度実装で課題解決可能
- ✓ BLDAは低コストにTFTを改善(高電子移動度・耐光性)



(例)アクティブ回路を用いたMiniLEDバックライトユニット概念図

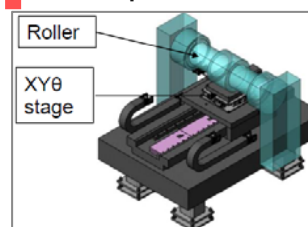
② コロナ禍で共同開発遅れも、今期に試作機を販売、来期より本格的な事業の立上りを期待

レーザーアノール装置(BLDA)



半導体レーザーにより各種FPDに最適な結晶構造を持つSi膜をガラス基板上形成

ローラー型μLED移載装置



他、レーザーリフトオフ装置、欠陥チップ修正装置等、主要工程を担う装置を同時開発

5. 半導体関係製品のR&D

① レガシー半導体フォトマスク用に新型の検査装置、修正装置を開発

Compact Repair System



② FPD露光装置技術をベースに半導体パッケージ用露光装置を開発

- ✓ 高精細/高生産性

*1、OMDIA(OLED and LCD Supply Demand Equipment Tracker(2021)より作成

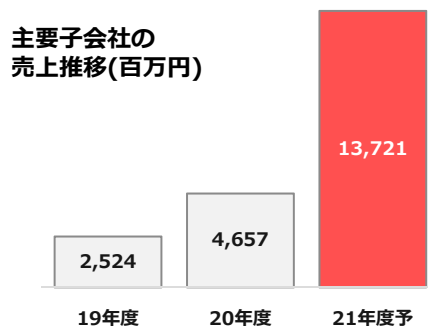
*2、当社作成

主要な子会社の概況(1/3)

1. 21年度販売計画

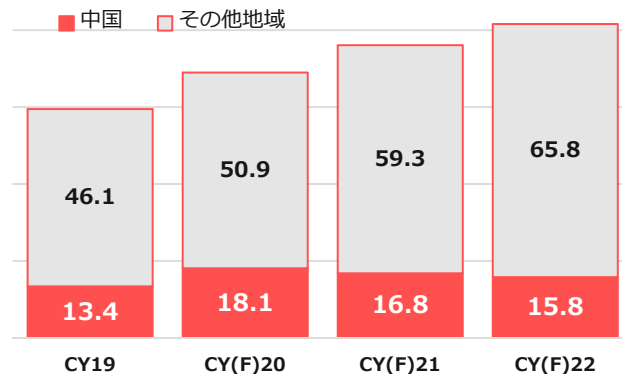
SEMI市場の成長を背景に躍進

- ① OHT、NSS、Z-CSETが牽引
- ② 新規のM&A含まず

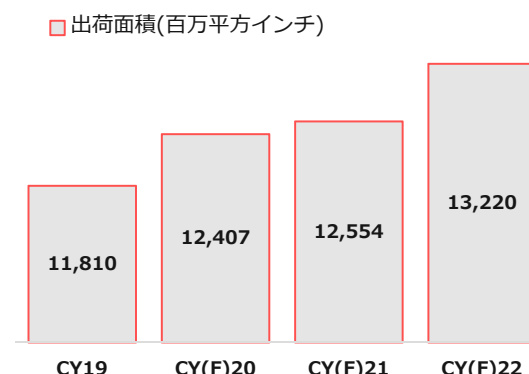


2. 半導体関連市場の成長は継続

半導体製造装置市場予測 (地域別、billion USD) *1



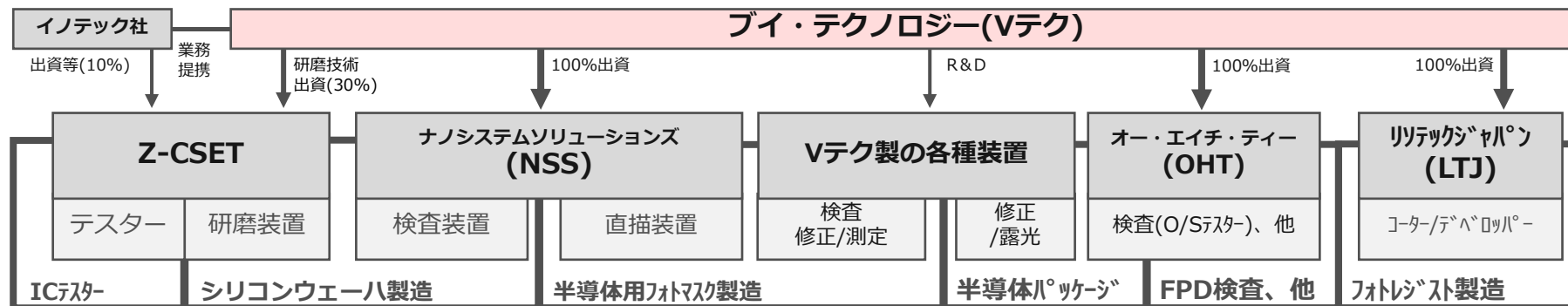
Siウェーハ市場予測 *2



3. グループ一丸で成長施策を推進、強みが活かせる分野に積極的に参入

M&A・業務提携・R&Dを駆使し、事業を短期間で拡大

(図)装置系主要子会社との資本関係、および製品と対象市場



*1、*2:SEMI 2020、2021発表資料より当社にて作成

主要な子会社の概況(2/3)

4. ナノシステムソリューションズ(NSS)

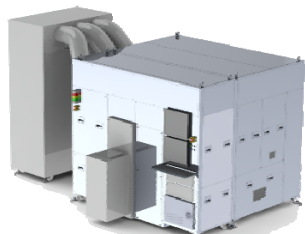
ウェーハ及び半導体市場成長を背景に商談急増、グループのリソースを集中投入し対応を強化

① Siウェーハ検査装置は、国内外の生産ライン増強に伴い商談急増



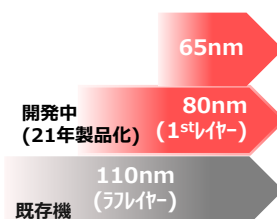
Siウェーハ検査装置

② 半導体マスク描画装置は、レガシー半導体需要増に伴い置換え需要も増加



半導体マスク描画装置

③ 半導体マスク描画装置の次世代機を開発中



セット販売

5. リソテックジャパン

レジストメーカーの評価装置を独占、リソ関連知見豊富、グループシナジーによる飛躍を期待

① 引合等への対応力を高め、販売規模を拡大



自動塗布現像装置

6. Vテク

グループ各社支援、シナジー見込める製品の開発

① 半導体マスク製造工程向けの検査装置、欠陥修正装置を販売中。能力向上機開発中/シェア拡大狙う

② 半導体PKG用露光装置の開発推進

7. Z-CSET、ICテスターの本格的な受注に成功

研磨装置も商談増加、成功事例を積み上げ、他社を呼び込み参入拡大

① 合併会社で2つ装置の事業化に成功



ウェーハ研磨装置

- 追加商談進行中
- 現地生産の強みを活用、量産適用実績を積上げ、シェア拡大



ICテスター

- 大手メモリーメーカーからの受注に成功
- 周辺部材や装置への参入も視野

② Z-CSET*1：中国資本と合併で2018年に設立/同社を活用し国内提携社と地産地消政策に対応



海寧工場外観(浙江省嘉興市海寧市海寧経済開発区内)

*1: Zhejiang Chip Sunshine Equipment Technology Co., Ltd.

主要な子会社の概況(3/3)

8. VSC(サルベージサービス)/中小型OLED市場

サルベージサービス状況

- ① IPを搭載するドライバICの生産が遅れ、6月から本格稼働予定
- ② 年間1000K~1500Kパネルの需要を期待



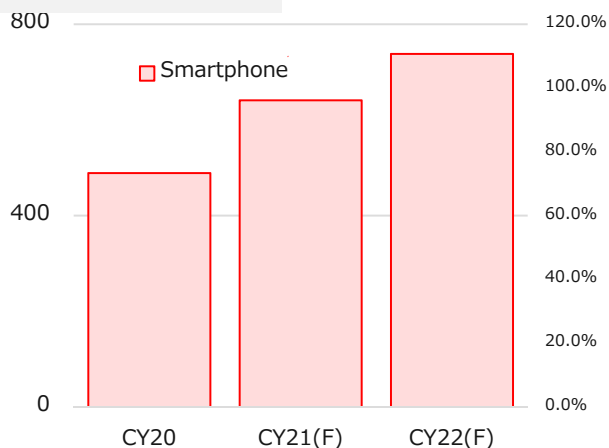
昆山工場外観



Demura装置

中小型OLED市場は回復

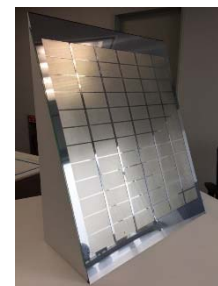
中小型OLED需要予測*1



*1. OMDIA(OLED and LCD Supply Demand Equipment Tracke(2021)より作成

9. VET(OLED用蒸着マスク)

- ① 顧客との共同評価遅れ、遅れを取り戻すべく加速、下期からの販売を目指し加速
- ② 蒸着マスク(Fine Hybrid Mask)



(写真)FHM

特長

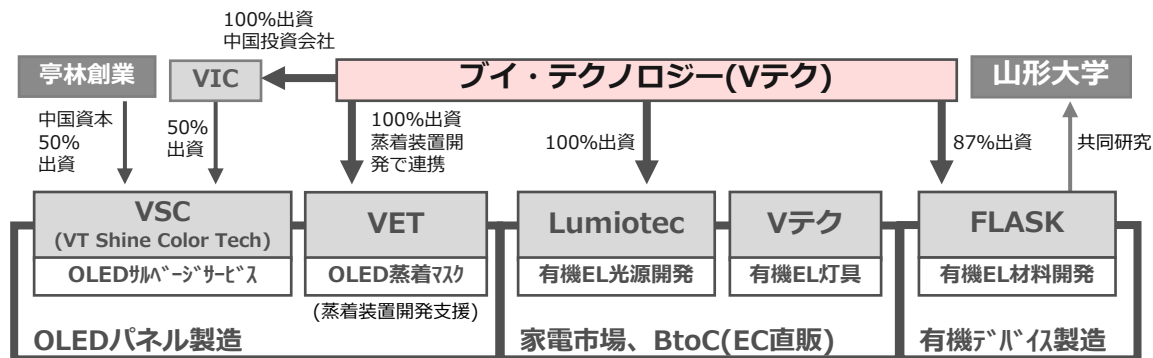
- ・ 樹脂+金属のハイブリッド構造を採用
- ・ 最軽量/高精細/高位置精度
- ・ 組立作業不要

10. 有機EL照明/灯具販売

- ① 有機EL照明
 - ✓ CHVT設置の生産ライン改善
 - ✓ 素子の長寿命化/コストダウン
- ② 灯具等
 - ✓ 今期からの販売を目指し、独自ブランド製品としてデザイン企画検討等、順調に進展

(ご参考)部材・サービス分野の事業状況

(図)部材・サービス系主要子会社との資本関係、および製品と対象市場



| 農業分野への新規参入

新たな分野でイノベーションの創造に挑戦

1. 5月12日開催の取締役会において、農業合弁会社設立と定款変更を決議

サステナブル経営の視点から、環境・社会課題の解決の事業化に取り組み、中長期の安定成長を実現

① 第一弾として、独自の経営リソース活用と安定した需要が見込める分野に参入

- 合弁会社で高付加価値トマトの生産販売に挑戦
- 味・品質等の点で群を抜く農産物への安定した需要
- 優れた環境特性を持つアイメック®によるトマト生産

② リスク分散の視点

- 海外輸出比率95%、国内事業のウェイトが低い
- 設備投資サイクルが業績に影響
- 各国のハイテク産業政策変化/米中問題等の国際情勢変化

VTの事業ポートフォリオ(産業分野別)

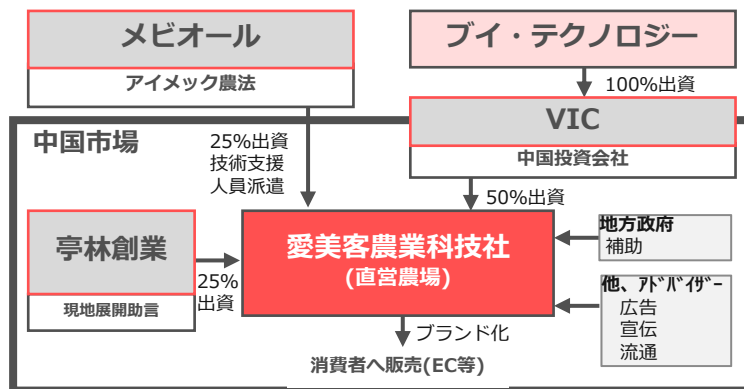


2. 合弁会社「愛美客農業科技」

VIC、メビオール社、亭林創業の3社で設立

- 登録資本金：30百万(RMB)
- 直営農業におけるアイメック®トマトの生産販売

(図)合弁会社と各社の関係



3. メビオール社/アイメック®について

ハイドロゲル技術を農業に応用しアイメック®を世界に先駆けて開発



メビオール株式会社

医療用に開発してきた膜およびハイドロゲル技術を農業に展開し、安全、高栄養価の農産物を生産する持続的農業技術(アイメック®)を世界に先駆けて開発

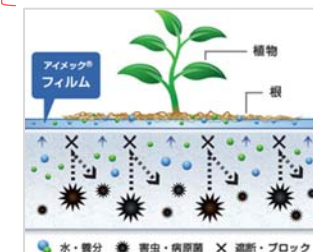
ウェブサイト →



アイメック®



- 高濃度・高糖度を実現
- 安心・安全
- 世界各国で特許取得済
- 土壌を問わずに栽培可能
- 未経験者でも短期間で習得可能



アイメック®システムによるトマト栽培

| サステナビリティ

経営理念・サステナビリティ

サステナビリティの視点から、会社の持続的成長とその先にある経営理念の実現に取り組みます。

経営理念

大いなる志と溢れる情熱で、世界最高のイノベーションを創造し、社会に貢献します。

経営方針

独自の強みで、規模の拡大と収益の安定化を実現し、世界有数の製造ソリューションプロバイダーを目指します。

事業(分野別)	FPD製造装置	半導体製造装置	部材・サービス	農業、他
施策	M&A	R&D	顧客	SCM 人材

サステナビリティ

環境

- ・気候変動(FPDの省電力化技術開発)
- ・資源保護(FPD/半導体歩留まり改善技術)
- ・汚染防止(各地環境法令に準じた生産活動)

社会

- ・安全(安全教育/装置の安全対策)
- ・社会貢献(柔道支援/女子柔道部運営/青少年育成)
- ・サプライチェーンマネジメントの強化(創喜会)

ガバナンス

- ・監督と執行の分離
取締役5名(内社外取2名)、指名・報酬委員会の設置、他
- ・リスクマネジメントの強化(本部制/関係会社管理室を整備)
- ・ステークホルダーとの対話(情報開示と対話の体制を整備)

最近のトピックス

【社会】愛媛県西条市が主催した柔道教室に、講師を派遣



【ガバナンス】指名・報酬委員会(任意の諮問機関)の設置を2021年2月に決議

【環境】廃棄中小型OLEDの再生事業に2019年着手(サルベージサービス事業)



良品化→

役職員行動指針

1. 気迫をもって臨んだか？
2. 誠意に反することなく、言動に恥じる事はなかったか？
3. 十分に努力し、最後まで全力で取り組んだか？

(ご参考) 2022年3月期 通期売上予想内訳(用途別)

